

入院や外来で医療費が高額になるときは

# 国民健康保険の 限度額適用認定証 をご利用ください

■住民課国保年金係 【☎028(677)6038】

## 8月が更新・新規申請の時期です

国民健康保険では、入院や外来などで医療費の個人負担分が高額になった場合、申請により自己負担限度額を超えた分を給付しています。町発行の「限度額適用認定証」を医療機関に提示すれば、窓口負担が自己負担限度額までとなります。

### 【年度更新】

すでに認定証を交付されている人が継続してご利用になる場合は、更新の手続きが必要です。住民課窓口で更新手続きを行ってください。

### 【新規申請】

入院などにより医療費が高額になると予想される人は、住民課国保年金係へお問い合わせください。

●受付期間／8月1日～31日の平日8:30～17:15

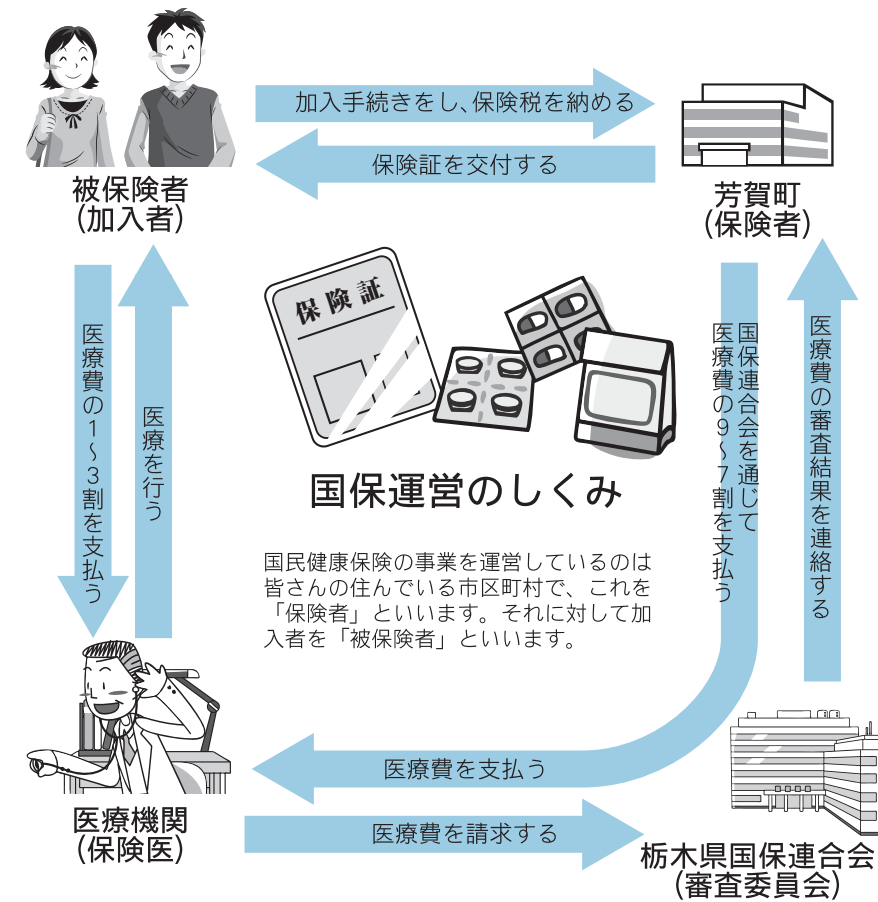
※国民健康保険税に未納がある場合は、認定証が交付されない場合があります。

## 加入手続きは遅れずに!

国民健康保険に入るのは、ほかの市区町村から転入したとき、職場の健康保険などを抜けたとき、子どもが生まれたとき、生活保護を受けなくなったときです。加入が遅れると、被保険者となった時点までさかのぼって保険税を納めなければなりません。また、保険証がない期間の医療費は全額自己負担となります。

## 高齢受給者証が 新しくなります

70になると、国民健康保険から高齢受給者証が交付され、誕生日の翌日から医療機関の窓口負担が軽減されます(所得の多い人は除く)。高齢受給者証は毎年8月に切り替えになります。医療機関を受診する際には、必ず新しく届いた高齢受給者証と保険証を窓口に表示してください。



# 第35回「全日本中学生水の作文コンクール」栃木県審査会で芳賀中学生が入賞

国は、8月1日を「水の日」とし、8月1日から7日までの一週間を「水の週間」と定め、水資源の有限性や水の貴重さ、水資源開発の重要性について、国民の関心を高め、理解を深めるため、さまざまな行事を行っています。この行事の一環として、国土交通省では、次世代を担う中学生を対象に「水の作文コンクール」を実施しています。

そのコンクールの栃木県審査会で、芳賀中学生が見事入賞しました。8月7日(水)栃木県公館で行われる表彰式で表彰される予定です。

## 入賞者

優秀賞	3年	山本	和宏
佳作	3年	金敷	莉奈
	3年	石川	絢菜
	3年	岩淵	凧沙

授業の取り組みの一つで、この作文を書きました。どちらかというと国語は苦手ではありません。水のことについて、いろいろ調べるのが少し大変でした。



山本和宏君

## コップ一杯の水を求めて

三年一組 山本 和宏

「あーのどが乾いた」僕たちが日常よく言う一言です。今の日本は、水という資源に恵まれていて、水が飲めなくて死んでしまうという人は、そうはいません。実際僕も今まで生きてきて、水が無くて死んでしまっただけという経験は、ありません。では、世界ではどうなのでしょう。

まず、水が不足している国で「あーのどが乾いた」と言っているのが飲めるでしょうか。いいえ、飲めません。それどころか、のどが渴いたと言う気力さえないほどに弱っているかもしれません。今世界の人口の五分の一にあたる十二億人の人々が安全な飲料水を確保できない状況にあると言われています。そんな中で水を粗末にしたり、無駄に使う人がたくさんいるのも現実です。僕は、何年か前に、公園で何人かの若い人たちが遊んでいるのを見ました。その人たちは、公園の水道にホースをつけて、水をあびて遊んでいました。僕は、そのころは、まだ知識がなく、もったいないなと思っていなかったのですが、最近読んだ本に、一人のアフリカの女の子の写りが載っていました。その女の子は、ボロボロの服を着て、ひびの入ったコップを、か細く弱々しい腕で持ち、こちらに差し出していたのです。目には、希望の光はなく、ただ純粋に、「私にコップ一杯の水をください」と言っているようでした。僕は、この写真を見た時、これは本当にこの時代の写真なのかと思うほど、過酷で、悲惨な状況でした。その時ふと、あの時の若者のことを思い出したのです。それと同時に、激しい怒りと日本人として生まれたことへの悲しみも感じました。僕の生きているこの国は、あんな小さな子が苦しんでいるのに、そんなことは気にせず、自分の都合だけで生きているのかと嘆きました。あの遊んでいた水で、あの子に思いっきり水を飲ませてあげたい、そう思うと涙まで出てきました。

その次の日から僕は、行動に移しました。

まず、水のない生活の苦しみを感じようと一日使う水を最小限にしました。それは予想を超えたものでした。まず朝シャワーを浴びずコップ一杯の水を、飲料水と歯みがきをする水にしました。学校に行つてからも極力水を飲まないようにしました。夜家に帰ると風呂には入らず、一分間だけシャワーを浴びました。シャワーだけでは体が休まらないと思えました。また、しっかりと温まっていなかったため、着替えている時に湯ぎめしませんでした。このように、水が無い暮らしがどのくらい大変かをわかったため、何をすればいいのか、思いつきやすかったです。

僕がまず行ったのは、トイレのタンクに水を入れたペットボトルを入れることです。これは、よくテレビでもやっている節水方法です。次に、お風呂の残り湯で洗たくをすることです。これは、本で調べたものです。最初は、残り湯で洗たくして、服に、においが残らないかと心配でしたが、きちんと洗われていたので安心しました。他にもいろいろなることを試して、水の節水をしました。そしてその月の水道料金の紙が来ました。すると、水の使用量が前の月より大幅に減っていたので、自分がやってきたことが正しかったと改めて実感がありました。またそれと同時に、自分がやらなければならないという強い責任感も感じました。

今の世界は、水という資源が無くなりつつあります。そんな中で水が豊富にあり、恵まれた国と、水が少なく、苦しむ国があります。

そのような時は、水を分け合えばいいのです。そうすれば、みんな平等に命の源水を手に入れることができます。のどが渴いたと言え、コップ一杯の水をもらうことができるのです。僕はこういう世界になるまで、有限の資源であり、人間の命でもある水を大切にしていこうと思います。